

全学学類専門学群代表者会議 第二回本会議 議事内容報告

作成者：遠藤 舜也

【日時】 2016 年 5 月 11 日（水）

【場所】 3A204

【出席】 全体 75 定足 38 出席 55 遅刻 3 早退 0

【資料確認】

配付資料一覧

- ・ 16007『議事次第』
- ・ 16008『第一回本会議 議事内容報告』
- 《議題①に関する資料》
- ・ 16002『2016 年度議長団選挙に関して』
- ・ 16003『学長決定「筑波大学の学生組織等について」』
- ・ 16004『副学長決定「筑波大学における学生の組織及びクラス連絡会等について」』

以上

※下線付き資料は第一回本会議にて配布済み

《訂正》

＊16008『第一回本会議 議事内容報告』

【出席】 「遅刻 0」 → 「遅」

【会議内容】

今回の第二回本会議では以下の議題を扱った。

議題①：2016 年度議長団選挙

以上

《議題①：2016 年度議長団選挙》

議長・鈴見が説明を行った。

研修会の通り、議題①の進行は総務委員会の専門委員に委託する。

総務委員会専門委員・落合に議題①の進行が代わり、説明を行った。

第一回本会議にて配布した資料 16002～16004 を併せて見てほしい。先日も紹介したが、再度今年度の監察役を紹介する。体育専門学群 4 年・山村と社会工学類 3 年・佐藤である。本日は選挙管理を行ってもらう。

続いて選挙の実施条件及び選出条件について確認する。資料 16003『学長決定「筑波大

学の学生組織等について』の第 23 項により、全構成員の 3 分の 2 以上の出席が必要だが、本日の出席者数は 53 名であるので選挙を行う。選出については、全構成員の過半数、すなわち 38 名以上の得票を得た場合、候補者が選出となる。

前回議長は選出されたので、本日は副議長選挙のみを行う。副議長は 2 名選出のため、立候補者が 2 名以下の場合には信任投票となる。3 名以上の場合には、先日の議長団選挙と同様に選挙を行う。

質問はあるか。無いようなので、これより副議長選挙を始める。なお、これより審議方法に対し変更の要望は受け付けない。

総務委員会専門委員・落合が立候補者を募った。

比較文化学類 2 年・福田が副議長に立候補した。

比較文化学類 2 年・福田が立候補演説を行った。

私が立候補した理由は 2 点ある。

1 点目は、先日の議長団選挙の際に言及があった「つながりの強化」という部分だ。ただ私のいう「つながりの強化」とは、全代会内部のつながりではなく、全代会外部の組織とのつながりのことである。学内行事委員会の委員長を務めている関係もあり、学園祭実行委員会、スポーツ・デー学生委員会や財務会議等の方々とのつながりはある程度は築けていると思う。しかし、筑波大学内にはその他にも様々な学生組織や大学側の組織がある。例を挙げるなら、茗溪会、キャンパスアテンダントやグローバルコモンズ等様々な組織があるが、全代会構成員のうち、そのことを把握している人がどれだけいるか。おそらくあまりいないだろうと思う。昨年の全代会を見てきて、そういった組織との連携が成されていないということは、私が前から強く感じていた点である。なぜそういった組織との連携が必要なのか。もちろん全代会としての業務にそういった組織との連携は含まれていない。しかし、全代会という組織は学生のためにある組織だ。学生のためにある組織が、筑波大学内にある学生のために様々な活動をしている組織と連携がとれていないのは、重大な問題なのではないかと思う。よって、私が副議長になったら、筑波大学内の学生組織はもちろん今まで通り連携を続けていき、今までカバーしきれなかった組織との連携を強化していきたいと考えている。

2 点目は、討論会というものを開催したいと考えている。先日の議長団選挙を見ていれば分かると思うが、会議の進行中に討論のように発展してしまうことがある。しかし、今までの会議の形式だと自分の学類と名前を言ってからの発言となる。その形式だと自分の発言の際に面倒であるので、それよりも全代会で各学類・専門学群の代表者として集まった人達が、ざっくばらんに意見を交えることのできる場を新しく作りたいと考えている。いつ開催するのかについてはまだ明確に考えているわけではないが、そういった場を作るこ

とで、より生身の意見を集めることができるのではないかと考えている。

この 2 点が、私が副議長になったらやりたいと考えていることである。もしこの意見に対して賛成であるなら投票してくれると嬉しい。

〈質疑応答〉

質問：討論会について質問がある。討論会でも議事録は作成するのか。

(物理学類 1 年・佐藤)

回答：もちろん議事録は作成する。討論会では、誰が言った意見であるかはそれほど重要ではなく、各学類・専門学群の代表者として集められた人の意見であるということが重要であると思っているので、テープレコーダーで録音した言葉を文字に起こして、どのような意見が出たのかということをもとに今後の議案作成や委員会活動につなげられたら良いと思う。(比較文化学類 2 年・福田)

質問：学生組織だけでなく大学の教員等の組織とも連携をするとのことだが、大学内にも様々な組織があると思うが、それとは別に大学本部との連携を、今までのランチミーティングや茶話会といった意見交換会の他にも意見を述べる場を設けるつもりなのか。

(社会学類 1 年・秋田)

回答：大学本部に全大会の議長団で訪問して、大学基金等をどのように学生の生活の生かしていけるのかということを知る機会を設けたら良いとは思いますが、本部との連携であれば既に茶話会や報告会等である程度とれているので、そういった大々的なものを本部との連携で増やすつもりはない。(比較文化学類 2 年・福田)

質問：先ほどからつながりの強化、連携の強化と言っているが、具体的にどのように連携を強化するのか。(医学類 1 年・福地)

回答：例えば、現在学生が教職に関して何か聞きたいときにどこに行けばいいのか、支援室以外で専門的に教職を扱っているところはどこにあるのか、といった質問が生活環境委員会等に来たときに、私達は対応できるのか。ちなみに現在、教職についての窓口を設けているのは茗溪会である。私は茗溪会の方と個人的なつながりがあるため、知ることができた。そういったつながりを強化するということは、挨拶に行くこと等簡単なことでいい。学生が少し困ったときにちょっと頼れる、そのような細かいところで支援していくために、日頃から顔合わせや挨拶をしていくことが大切だと思う。先ほどの本部の件にもあったが、大々的な何かをするつもりはない。これは、私が今までいろいろやってきて、いろいろな組織とつながりがあるからこそできることだと思っているので、課題として来年度の引き継ぎがあるが、少なくとも今年度はこのように細かいつながりを作っていきたいと考えている。(比較文化学類 2 年・福田)

質問：まだ出たことがないので分からないが、意見聴取会というものが存在すると思う。

意見聴取会と討論会の違いは何か。(生物学類 1 年・石川)

回答：私も実際にそうだったので、学類と名前を言うのが意見を言う際の障害となっていると思う。席の配置も前に何人かいて、残りは階段状に座っているが、討論会では例えば机を囲むように円のように座って討論をするようにする。意見聴取会は本会議と同じような形で行うので、かなり違うと思う。(比較文化学類 2 年・福田)

質問：討論会は、全代会構成員ではない人が参加をするのか。全代会構成員が名乗らないで討論をするのか。ふらっと来た人が討論をするのか。(物理学類 1 年・佐藤)

回答：私が行いたい討論会は 2 つあり、1 つは学内行事委員会委員長として、1 つは副議長として開催したいと考えている。学内行事委員長として行いたいのは、ふらっと来た人がという方で、有志の人達で集まって行く。副議長として行いたいのは、全代会構成員が集まって、座長団として選出された、という意識のある人間が集まって話し合う場を作ることである。

(比較文化学類 2 年・福田)

質問：今の話を聞いていると討論会は義務であるような気がするのだが、構成員にとって新たな負担となるのか。また、各委員会のミーティングがあるが、スケジュールの調整はどうするのか。(生物学類 2 年・吉川)

回答：討論会についてはまだ具体的に何も決まっていなかったが、おそらく義務とはならないだろう。一つの形としては、意見聴取会の前にそのような討論会を入れるのもありだと思う。(比較文化学類 2 年・福田)

質問：意見聴取会の前に討論会を入れるというのは、意見聴取会の時刻を遅らせるのか。6 限の間にやるのか。どういうことなのか。(生物学類 2 年・吉川)

回答：1 週間前にやるということである。現状、義務にするかどうかは非常に厳しいところである。選出・責任説明者の話のときにあったと思うが、会議や意見聴取会をやるのは、1 ヶ月に 2、3 回であるので、空きはある。そこで、議案に対し意見を持っている人達が集まって、ちょっとした討論会を挟んで、その意見も加えて意見聴取会を行うのもありだと思う。(比較文化学類 2 年・福田)

質問：討論会の議題はどのように設定するつもりか。(生物学類 2 年・吉川)

回答：議題はたくさんある。例えば、松美池に関してや一の矢学生宿舎の街灯について等がある。このようなことをいちいちやりとりをせずに言い合える場を作ることが大変有意義だと思う。(比較文化学類 2 年・福田)

質問：その討論会は、議長及び議長団の独断で決められるのか。それとも、構成員の意見を反映させるのか。(生物学類 2 年・吉川)

回答：話し合う内容については、本会議、意見聴取会と同じ形式でやればよいと思う。

(比較文化学類 2 年・福田)

質問：討論会で扱われた議題を意見聴取会の議題にしてしまう場合、討論会に参加する人

と参加してない人で知っていることに差が生まれてしまい、同じことが二度は話し合われる場合もあると思うが、それについてはどうするのか。

(生物資源学類・丹野)

回答：議事録を作成するので、その議事録を会議の前に配布しておけば、どのようなことが話し合われたかについては確認できる。意見聴取会を経て本会議を行うのが全代会の決まりなので、それは行わないといけませんが、その前に討論会を行い、その議事録を読むことでどのような質問が行われたのか知り、質問するかを決めることができるようになると思う。

(比較文化学類 2 年・福田)

質問：この人数で丸くなり討論会を行うと、大体何を言っているのか分からなくなってしまい、混乱すると思う。そこで、某テレビ番組のような形を取るのか、話し合う議題を担当する委員会の人や関連する人が党首討論のような形で代表者を出して話し合うのか、どうするのか。(社会学類 1 年・秋田)

回答：人数が多くなると分からなくなると言うことは理解できるので、例えば机を分けたりすることで人数を減らすことができる。しかし、義務としなければ人数は減るかもしれない。義務としてこの人数が来た場合も机を分けることで、話が分からなくなると言うことはなくなると思う。各学類・専門学群の代表者の意見が欲しく、またそこからさらに代表者を出すと代表者の代表者になってしまうので、党首討論のような形にすることは考えていない。人が多くなって混乱するということならば、分けることで解決できる。(比較文化学類 2 年・福田)

質問：グループ分けをしてしまうと、グループごとに話し合う内容が分かれてしまい、同じ場所にいるのに、意見の共有ができないということになってしまう。それならば、全代会の構成員で討論会をするのではなく、それぞれの分野ごとに分かれている委員会で話し合った方が合理的ではないか。全代会の構成員全員で討論をするから意味がある。またグループに分けると議事録のとりが大変である。委員会で話し合うべきであり、わざわざ全代会の構成員全員で話し合う必要はないと思う。

(社会学類 1 年・秋田)

回答：結論から言うと、必要はあると思う。私が討論会をやりたい理由は、専門的な知識とかではなく、この形式では発言しにくいので、みんなが意見を言える場を作りたいからである。目指しているものが違うのだと思う。(比較文化学類 2 年・福田)

意見：私もその意見については共感できるが、グループに分けると私が思っているものと違ってしまう。(社会学類 1 年・秋田)

返答：私が副議長に当選すれば、これから行っていくと思うので、いろいろな意見を取り入れて討論会を作っていきましょう。(比較文化学類 2 年・福田)

質問：先ほどの話だと意見聴取会で話し合うことを先に討論会で話し合うとのことだが、仮に討論会が自由参加だとすると、討論会に参加するのは意欲のある人だと思う。

その場合、次の意見聴取会では意欲のある人の間では議論は尽くされた状態になり、次の意見が出にくくなると思う。そうすると意見聴取会が形骸化してしまうと思うのだが、その点についてはどう考えているか。(人文学類 1 年・中川)

回答：例えば、討論会で話し合われた議題を座長団に送り、座長団がクラス代表者会議等で各学類・専門学群の人に開示する。そして、意見を募ってきて意見聴取会に出れば、形骸化はしないと思う。討論会では自分がその場で思ったことを言い合える。その討論会の議事録を座長団がクラス代表等に見せて意見を募る。そして、意見聴取会でその意見を発表すれば形骸化はしないと思う。(比較文化学類 2 年・福田)

質問：意見聴取会の一週間前に討論会を行うとのことだったが、その方法だとフィードバックに時間がかかりかかると思うので、意見聴取会で扱う議題を前々の討論会で扱い、長いスパンで取り扱っていくという認識で大丈夫か。(人文学類 1 年・中川)

回答：それが良いと思う。私も意見を言いやすいので討論会をやりたいが、具体的にどのようにやるか全然練れていないので、みんなで意見を出し合って、作っていったら良いと思っている。(比較文化学類 2 年・福田)

質問：2 点質問がある。まず 1 点目は、議長としての質問にもなってしまうが、議長の意見のつながりとは少し違うと言っていたが、クラス代表者会議、議長、議長団とのつながりはどのように取っていかようと考えているのか。(物理学類 2 年・鈴見)

回答：互いの考えについて意見を言い合ったり、一緒に行動したりするつもりだ。

(比較文化学類 2 年・福田)

質問：2 点目は、現在、学内行事委員会の委員長であるが、それとの兼任は確実に可能か。

(物理学類 2 年・鈴見)

回答：可能である。(比較文化学類 2 年・福田)

質問：具体的に、副議長になると仕事の量が今よりも増えると思うが、もし仕事が増えすぎてしまえば、どちらかを優先させなくてはならないとなったときに、ケースにもよると思うが、どうするのか。(物理学類 2 年・鈴見)

回答：学内行事委員会には頼れる仲間がたくさんいるので、学内行事委員長としての仕事をそちらに任せるつもりだ。これは、私が学内行事委員会委員長に選任される際に仕事が増えてもいいなら投票して、と言ってあるので大丈夫だと思う。

(比較文化学類 2 年・福田)

質問：討論会が義務化されると、意見聴取会が 2 回になって負担が増えると思うがどうするのか。(情報メディア創成学類 2 年・村田)

回答：今この場で、義務化にするか否かは決められないが、私個人の意見としては義務化の必要はないと思う。私が討論会を行いたいのは、意見を言いやすい場を作りたいからである。

(比較文化学類 2 年・福田)

質問：連携の強化と言っていたが、つながりの強化をして何をするのか。

(オブザーバー・情報科学類 4 年・上田)

回答：例えば、先ほど言ったような教職に関する情報の発信。また、昨年度は T・ACT で選挙の投票場所を筑波大学内に誘致したいという活動を行っていた。これは全学に係のあることだと思うが、全代会とはつながりが強くなかったので、T・ACT の一つの活動に肩入れができなかった。これは、とてももったいないことだと思う。全学の学生に係のあることなのに、そのような障害で、学生側の利益になることを伝えられないことがもったいないと思う。つながりを強化することでこのようなことを強めていけると思う。(比較文化学類 2 年・福田)

質問：つまるところ、つながりの強化ということは、学生に有益な情報を発信することなのか。(オブザーバー・情報科学類 4 年・上田)

回答：もちろん学生のためにある組織なので、学生に有益な情報を発信と言うことも挙げられる。その他にも、全代会の業務をやっていく上で他組織とのつながりがあることはメリットにはなるが、デメリットにはなり得ないと思う。もしデメリットがあるのならば、教えてもらい改善していくつもりだ。(比較文化学類 2 年・福田)

〈投票〉

議題①：2016 年度議長団選挙 (副議長)

A (信任) : 52

B (不信任) : 0

C (保留) : 3

白票 : 0

以上

※採決時の議長団の人数は 55 名

上記の通り、議題「2016 年度議長団選挙」において、比較文化学類 2 年・福田が 2016 年度副議長として選出された。

時間が余っているため、一分間もう一人の副議長の立候補を募った。

立候補者が現れなかったため、もう一人の副議長は次回選出する。

進行が議長・鈴見に代わった。

【委員会報告】

*議長団

- ・ 議長の引き継ぎを行った。
- ・ 6つの委員会の各委員長と現状やこれからの方針について話し合った。
- ・ 機関誌の方針を総務委員会と話し合い中である。

＊総務委員会

- ・ 第二回本会議の会議準備をした
- ・ 機関誌について議長団と話した。

＊学内行事委員会

- ・ 学園祭第一次実行計画書が届けられた。
- ・ 月曜日にミーティングを行った

＊教育環境委員会

- ・ 月曜日にミーティングを行った。
- ・ 教員向けのアンケートの項目について話し合い、各支援室に協力の要望を直接伝えに行く担当を割り振った。

＊生活環境委員会

- ・ 1年生にメールを送った。
- ・ 木曜日にミーティングをやる予定である。

＊調査委員会

- ・ 火曜日にミーティングをやり、今後の方針を決めた。
- ・ 来週以降は送られてきた意見をミーティングで審議してゆく。

＊広報委員会

- ・ 宿舎祭特別号を作成中
- ・ 広報委員会の Twitter アカウントのガイドラインを作成中である。

【諸連絡】

(2015 年度副議長・落合)

- ・ 茶話会に関して、全員分大学へ報告するので、欠席の場合でもきちんとメールを送ってほしい。

(比較文化学類 2 年・福田)

- ・ T-ACT で 5 月 18 日（水）に松美池でキャンドルナイトが行われる。私達は会議があり行けないが、他の人に告知してほしい。